

私が行くべきして進んだ大学が明治大学であります。

私共の母方の多くは、早稲田、父方が明治と言う家に育ちそれは明治法律学校と言われた時以来のことです。

私の祖父は、「権利・自由」「自由民権」「早慶戦」「箱根駅伝」等々幼き私に講釈したものです。

縁と言うべきか、当初はまさか明治へとは夢にも思わずただ「東京」への強い憧れと、就職は「高島屋」との意識での商学部でありました。

私等の年代は、学生運動の終わり連合赤軍と言った勇ましい言葉に代表される又、大学が大変疲弊した学生時代でありました。日本が高度経済成長に実質的に転じた過渡期であり、外的にはベトナム戦争・中東戦争・オイルショック・ドルショックと言った激動の時代でありました。

これらの出来事は、大学での授業においても密接に影響を受けていたと、今も内容は濃いものであったとっております。

激動の学生時代・青春ではありましたが、また多人数ではありましたが、未来に誰においても希望を持ち得る、個々の能力・才能が充分に開花するであろうと予感するものでもありました。また明治大学がその社会の要請に充分に答える存在でもあったと思う次第であります。「教育」だったのでしょう。

私のもう一つの顔は体育会競走部に籍を置き、現在とは違い弱い時代のチームで運良く箱根駅伝に2回選手として出場出来たことであります。

命懸け、惨め、ある意味挫折感と良い思い出は無いのですが、ただ一つ「ただのかけっこ」ではなかったと言う事でしょう。

卒業の年 OB の送別の言葉は「止めないで走り切ると言う事は、生きて行くと・生きて行けると言う事なのだ」一生懸命人生を豊かに、楽しく歩みなさいとの事でありました。先輩の方々がかつて東京オリンピックの運営・競技者として関わった人達であり日の丸を背負った方々であります。今日お付き合いをさせていただいておりますが、今も我々を教え導く姿勢は変わることはありません。

私は大変ラッキーな男でありまして、本来なればお近づきになれない方々とお会い出来また大変可愛がられ、ろくにラグビーの北島監督がラグビー部員の名前をお知りになられない晩年に名前を覚えてもらい、直接箱根前の時には「岡田君 前へ前へだよ」ならば負けることは無いとの言葉を頂いております。

今日思うに、明治大学と体育会なるものは他大学にない「しっくり」とした一体感がある。これを突き詰めるならば人と人の繋がり生の教育現場であり大切なものと感じる訳であります。

最後に、立派な全国的校友会組織を有する明治大学特に現役、若い校友を皆で支え盛り上げ個々の能力を様々な分野において発揮させる為協力をして行こうではありませんか。